

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第293号

2019年8月7日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」

この4月にヴェトナムで開かれたアジア・オセアニア大会で、参加した永瀬義勝さんが本を買ってセンターに寄贈してくれました。1999年発行の Granda Vortaro Vjetnama-Esperanta も含まれます。



◀◀ 目次 ▶▶

La urbo Remso (REMSA ESPERANTO-GRUPO)	2
東海エスペラント大会へ集おう	4
センターの蔵書から (3)	5
第31回愛知サマーセミナー (山口眞一)	6
第107回日本エスペラント大会に向けて (山口眞一)	9
活動日誌	10
今後の活動予定	11
Vidindaj Loko en kaj ĉirkaŭ Nagojo (3) (Yamaguti Sin'iti)	13
Kaneko Humiko kaj mi (Nakayama Akiko)	17
訃報・編集後記	18

La urbo Remso

- Ĝemela urbo kun Nagojo -

REMSA ESPERANTO-GRUPO



Remso (Reims) estas urbo en nordorienta Francio. Ĝi havas 184.802 loĝantojn en la jaro 2018.

Pro tio Remso estas la plej loĝata komunumo en la departamento Marne kaj la 12a komunumo en Francio.

En 2017 Remso kaj ĝiaj ĉirkaŭaj urbetoj kuniĝis inter si por krei la " Granda Remso" kun preskaŭ 300.000 loĝantoj.

Ofte oni donas al Remso alinomon : la urbo de konsekradoj aŭ la urbo de Reĝoj.

Fakte en ĝia katedralo, post kiam Klodvigo igis sin kristano, estis kronitaj la reĝoj de Francio dum dek jarcentoj ekde Ludoviko la Pia en 816 ĝis Karolo la 10a en 1825.



Cetere Remso posedas tri lokojn enskribitajn en la mondan heredaĵon de Unesko: La katedralo, la baziliko Sankta Remio kaj la palaco de Tau.

Evidente Remso kaj ĝia regiono iĝis delonge fama pro la ĉampano, ŝaumvino farita el vinberoj kreskantaj en la okcidenta parto de tiu regiono.

En 2018 Arnaud Robinet - Remsa urbestro - kadre de la ĝemeliĝo kun Nagojo, skribis : "Ni tre fieras meti nian nomon apud tiu de la japana urbego, kiel fratina urbo."

La fama pentristo Fujita¹ ekkreis unuan pordon en via lando, ni - disĉiploj de Zamenhof - agos nepre por malfermi pli larĝe tiun pordon...



¹ 藤田嗣治 (red.)

東海エスペラント大会 へ集おう

大会テーマ：東海の可能性を語る

下記の通り、名古屋エスペラントセンター主催による「第68回東海エスペラント大会」の概要が決まりました。皆様のご参加をお待ちしております。

日程：10月26日(土)から27日(日)

会場：アートピア（青少年文化センター）

名古屋市中区栄3丁目18-1 ナディアパーク内

（地下鉄矢場町駅から北西へ徒歩5分）

第一部は第三研修室(9階)、第二部は第一スタジオ(7階)

参加費：2,000円（記念品付き）

申込先：山口眞一

電話 / FAX 052-807-1198 / E-mail <syam-z@wa2.so-net.ne.jp>

（当日参加も可能ですが、なるべく事前に申し込みをしてください。）

■ 10月26日(土) 第一部

09:00 開場・受付／09:30 開会

09:40 大会協議会（2020年名古屋の日本エスペラント大会について、など）

11:30 記念写真／11:40 昼食（各自で）

12:40 シンポジウム「2020年代のエスペラント運動を語る」

14:30 公開講演会（ミカエロ・ブロンシュテイン）

演題「Ukrainio kaj Rusio — du ŝtatoj, ĉu fratoj?»（通訳あり）

16:00 アピールなど／16:15 第一部終了

■ 10月26日(土) 第二部 公開演奏会

「ブロンシュテイン おしゃべりと演奏の夕べ」

バラードを中心とした演奏に背景や楽曲の解説などを織り交ぜて。

おしゃべりには通訳付

18:40 開場・受付

19:00 開演/20:00 終演

この後有志による懇親会（別途実費要）

■ 10月27日(日) 午前 大会後遠足

名古屋城本丸御殿、トヨタ産業技術記念館など

講師・ミカエロ・ブロンシュテイン氏はロシアのエスペラント運動の牽引役の一人で、エスペラント語での作家・詩人・歌手としても国際的に活躍しています。今年の日本エスペラント大会にもゲストとして招待されており、大会では、コンサート出演や講演などが予定されています。代表的な著書は次のとおり。

Oni ne pafas en Jamburg (1993)

Jen, denove... (1998)

Urbo Goblinsk (2010)

Mi stelojn jungis al revado (2016)

など多数

今回は、10月9日から11月13日にかけて日本各地を回り、その間10月25日から28日の三泊四日で東海地方に滞在します。



センターの蔵書から (3)

本棚を整理した猪飼吉計さんがずいぶん古いですが貴重な本を見つけ、それらをセンターに寄贈されました。センターの蔵書データとして番号を振って記録保管していきます。(山田義)



第31回愛知サマーセミナー

山口眞一

昨年に引き続き、愛知サマーセミナーに、名古屋エスペラントセンターとして講座「国際語エスペラント」を出講するかたちで参加しました。

愛知サマーセミナーとは、愛知県内の私学関係者を中心に、教員、父母、生徒、市民がボランティアで毎年開催している、国内屈指の自由学校のことです。2000以上もの講座、参加者は7万人近くあり、年々規模が拡大しています。

開催日は7月13・14・15日の三日間。場所は南山学園（大学、高等学校・中学校[男子部・女子部]・附属小学校）。エスペラントの講座はそのうち、14日の2回、大学で開催しました（第3限13:10-14:30,第4限14:50-16:10）。各回内容は同じ単発講座です。

分厚い講座一覧表には、次の案内文が掲載されています。

講座名「国際語エスペラント」：エスペラント語はどの民族のものでもない中立な言語です。学習容易であるように整理して創られました。世界中にこの言語を使う人がいて相互に交流をはかっています。少しでもこの言語について触れてみませんか。

講師は私（山口）が担当し、スタッフとして、堀田、鈴木、湯浅、前田の委員各氏に教室設営や資料運搬などで助けていただきました。他に内藤恵子さんと山本由紀子さんが見学（サクラ参加）してくださいました。



2回の講座を通じ、講師、スタッフおよびサクラも含む延べ参加者は16人。うち、中学生1、高校生2、保護者1の受講（南陽中、名古屋大谷高、東海高）。昨年と比べると受講者数は半分以下でしたが、こればかりは会場の都合などの影響があり、運としかいいようがありません。

昨年と同様ですが、講師として私が心がけたことは、「語学としてのエスペラントを教える」のではなく、「国際語エスペラントの魅力をプレゼンテーションする」ということです。そのため、テキストは使わず、Keynote（Macintoshで使

うプレゼンテーションソフトで、Windowsで使うPower Pointに相当)で作成したスライドを、モニターに映して講座をすすめていきました。

実際の内容は次の5つの柱から。

1. 国際語ってなんだ？
2. 英語＝国際語？
3. エスペラントはどんな言葉？
4. エスペラント使用の実際
5. エスペラントの初歩を学ぼう

昨年とやや趣を変えたのは、「初歩を学ぼう」にかかる時間を少し減らし、エスペラントが何を目的にしているのか、その理想についても触れるようにしたこと。また、受講者にあわせて話のしかたを変えたりもしました。



受講者には最後にアンケートおよび感想文を提出してもらいました。アンケートはこちらが作成したものです。第4限受講者のアンケートを回収し忘れたのですが、第3限受講者からは、入門講座へ参加したい、と回答がありました。

アンケート2通および感想文4通から読み取れる傾向としては、「年齢が下がるほど素直にエスペラントに共感してくれる」ということです。

感想文4通をここに紹介します。

「今回のサマセミで初めてエスペラントについて知りました。少しだけですが、実際にエスペラントにふれて、言葉のもつ可能性を感じました。今日はありがとうございました。」(中学3年女子)

「中立言語の存在は大変おもしろいと感じた。また、講義の進め方が洗練されていてよかった。」(高校1年男子)

「初めてエスペラントを学んだが英語より簡単だと思った。これを機に、この先エスペラントの学習をしていきたいと思った。いろんな学習方

法があることを知ったので、どれかをためしてみたいと思った。」（高校3年女子）

「エスペラントを知らなかったが、考え方としては学ぶべきものがあると感じた。歴史もあるし、考え方も美しいが、世の中は別の軸で動いていることも事実。ただ、このような活動は続いていってほしいと思う。」（父母）

なお、今回の愛知サマーセミナーには、名古屋エスペラントセンターとは別個に、津田昌夫さんが7月14日の第3限に南山高中女子部で「エスペラント語入門講座」の名で講座をおもちになりました。（津田さんの講座については、センター委員会では直前まで気がつかなかったこと、また偶然にも日時が重なったためにお手伝いすることができませんでした。）

津田さんからは下記のようにご報告をいただきました。

=====

機関誌に載せるほどのことないような集まりで、しかしながら、楽しくエスペラントの話をさせてもらいました。

参加者は10名。私の身内と、私の卓球仲間がすべてで、私が知らない人はいないという状況です。救いは、おい（高校生）や友人のお嬢さん（中学生）、それに姪のご主人（米国人、日本語



が話せない）の3人が含まれていたことでしょう。私のHPにその写真を載せました。お暇なときに、覗いてみてください。

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/espashiya/>

第107回日本エスペラント大会に向けて

山口 眞一

本誌前号の記事「2020年日本エスペラント大会招致について」によって、既に御存知と思いますが、来年の日本エスペラント大会が名古屋で開催されることとなりました。

日本エスペラント協会（JEI）理事会でも承認され、5月26日にはセンター事務所で準備会を開催、大会の主催元として「第107回日本エスペラント大会実行委員会」（Loka Kongresa Komitato de la 107-a Japana Esperanto-Kongreso、以下LKKと略）が立上げられました。JEIとLKKとの共同開催という形式となります。

そして、LKKの第1回会議と第2回会議がそれぞれ、6月23日、7月13日に開催されました。また、7月19日には会場下見を行いました。

7月20日現在、ここまでの段階では下記の通り決まっています。

●LKKメンバー（実行委員）：山口眞一（委員長）、堀田裕彦（副委員長）、鈴木善彦（会計）、伊藤俊彦、山田義、永瀬義勝、猪飼吉計、湯浅典久、前田可一、山本修、吉岡真紀、黒柳吉隆、後藤好美、片山正昭、伊藤順子、小川博仁、堀田有里（JEI大会組織部長）

●大会テーマ：「愛と知を奏でよう！—日本のまんなかで」

“Sonoru amo kaj saĝo! —el la meza Japanio”

●日程：2020年9月20（日）21（月・祝）22（火・祝）

●会場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

会場候補としては他にいくつかあった中で、予約のとりやすさと立地条件を考慮してウインクあいちとなりました。ただし現時点ではまだ予約は成立していません。8月初旬に申込みを行い、同月末までに可否が決定します。11月の連休を第一希望としていたのですが、既に他の大型イベントによって塞がっていました。ここでダメならば他の会場（吹上ホール）または他の日程で調整します。

ウインクあいちは名古屋駅前に立地し、周辺には新しい商業施設がひしめきあっています。都市型の大会として、エスペラント界外からも注目を集めるような大会にしたいと思っています。

現時点では、具体的な番組企画はほとんど白紙状態です。センター維持員の皆様からアイデアをいただければ幸いです。

第3回のLKK会議は8月10日（土）午後3時から6時、栄メンバーズオフィスで開催します。暑い盛りですが、ご参加をお待ちしております。

活動日誌（6月から7月）

- 6/4（火）11時から15時 蔵書整理作業
6/11（火）19時から21時 初級講習会（作文会話）
6/14（金）17時半から19時半 中級講習会
6/18（火）18時から20時 センター委員会
6/23（日）15時から17時 第107回日本エスペラント大会実行委員会会議
6/26（水）16時から18時 読書会
6/26（水）19時から21時 初級講習会（講読）
6/28（金）17時半から19時半 中級講習会
7/5（金）17時半から19時半 中級講習会
7/9（火）19時から21時 初級講習会（作文会話）
7/12（金）18時から20時 センター委員会
7/13（土）15時から17時 第107回日本エスペラント大会実行委員会会議
7/14（日）愛知サマーセミナーに出講（南山大学にて）
7/24（水）16時から18時 読書会
~~7/26（金）19時から21時 初級講習会（講読）~~ 延期
7/27（土）17時から ランス・エスペラント会とスカイプ交流会
(太字の項目は、別途報告があります)

初級講習会について

2月から4月にかけて実施した第2期入門講座に5人が受講、うち4人が終了したのを受けて、6月より初級講習会を開講しました。講習生の希望を聞きとった結果として、「作文会話」と「講読」の二クラスを開講することとなりました。

「作文会話」クラスの講師は堀田裕彦。6月11日（火）と7月9日（火）の二回を実施済み。ある題材について短い作文をし、解説と質疑応答、および文法上の再確認をしました。受講生は5人。以後、8月に第三回、9月に第四回を予定。延べ8時間の予定です。

「講読」クラスの講師は山口眞一。6月26日（水）に初回を実施、以後9月から11月にかけて第二回から第四回、同じく延べ8時間を予定しています。山口訳による“Fabeloj el la Budhisma Literaturo”をテキストに、一回につき一篇を読み切り、語彙力の強化をしながらまとまったエスペラント文を読み慣れることを目的としています。受講生は4人。

ランス・エスペラント会とスカイプ交流会

7月27日（土）17時から約30分間、ランス・エスペラント会（Remsa Esperanto-Klubo）と、スカイプを用いた交流会を開催しました。当日は折悪しく台風のため、当方からの参加が2人のみ（鈴木善彦、山口眞一）。先方は7人の参加でした。自己紹介や会の紹介を相互に行いました。ランス・エスペラント会は6年前に結成され、現在は20人ほどが在籍しているようです。初心者が多いように見受けられましたが、若い人の姿もあって成長が期待できそうです。来年の日本大会にはぜひ参加してほしいことを伝えました。

電波状態が良くなかったためか、音割れが発生したのが問題です。ビルの奥まった場所でモバイルWi-Fiだと、限界があるのででしょうか。

次回は、東海大会の時にまたやりましょう、ということになりました。（山口）

ランス側のように



今後の活動予定

第3期入門講座

下記の通り開催します。お知り合いをお誘いください。

- ・第1回：2019年9月14日（土）14時から18時
- ・第2回：2019年10月20日（日）14時から18時
- ・第3回：2019年11月17日（日）14時から18時
- ・第4回：2019年12月22日（日）14時から18時
- ・講師：山口眞一
- ・受講料：教材費1000円+各回500円

- ・テキスト：『ドリル式エスペラント入門』（日本エスペラント協会）
- ・申込み先：山口眞一
電話052-807-1198 またはメール<syam-z@wa2.so-net.ne.jp>

ワールド・コラボ・フェスタ2019

- ・10月12日(土)・13日(日) 10:00 ～ 18:00
- ・オアシス21「銀河の広場」にて
- ・中部地区最大の国際交流イベント
- ・問合せ：後藤好美<yosimi51@mf.ccnw.ne.jp>
- ・今年は日本エスペラント大会と重なるために、スタッフが不足しています。日本大会へ参加されない方は、ぜひ足を運んで、宣伝活動にご協力をお願いします。

日本エスペラント大会（分科会）

名古屋エスペラントセンターとして「図書館分科会」（エスペラント図書館の現状とその展望）を主催します。初の試みですが、各地にあるエスペラント図書館の現状を報告し、今後のありかたについて話し合う会です。

東海エスペラント大会

本誌4頁をごらんください。

ザメンホフ祭

12月14日（土）午後
岩倉市の「えほんのもり」にて
詳細は次号にて

第104回世界エスペラント大会において幹部会（estraro）の改選があり、新たに8人の幹部会員が選出されました。会長には Duncan Charters と Fernando Maia の二人が立候補し、投票により僅差で Duncan Charters が当選。中国から Huang Yinbao が副会長・財政担当・ユネスコ担当として、また韓国からは So Jinsu がアジアオセアニア地区・広報担当として選ばれています（日本からは立候補なし）。Charters氏は71歳のイギリス人。国際エスペランティスト教育者連盟（ILEI）の元会長でもあった人です。

Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (3)

Kastelo de Nagojo

(名古屋城)

[ĝenerala informo]

Kastelo de Nagojo situas en la centra parto de Nagojo. Dum la periodo *Edo* tiu ĉi kastelo estis posedata de la branĉa familio de *Tokugawa*, kiu estis la plej prestiĝa branĉo de la ŝoguna familio.

Ĝia mallongigita nomo *Meijo* [*Meijoo*, 名城] estas ofte uzata de urbanoj de Nagojo, kiel ekzemple epiteto de entreprenoj, lernejoj, instancoj k.t.p. (*Mei*: alia prononco de la ĉina ideogramo [名] “na” el “Nagojo [名古屋]”. *Jo* signifas kastelon.) Tio ĉi montras, ke la kastelo — ne nur ĝia politika graveco sed ankaŭ la bela figuro de ĝia ĉefturo — penetris en vivon kaj koron de la urbanoj.

[historio]

La origino de la kastelo estas la fortreso, kiun en 1518 konstruis la familio *Imagawa*, potenculo en la provinco *Suruga*, kaj konkuranta kun la familio *Oda* reganta la provincon *Owari*. En 1532 *Oda* deprenis ĝin de *Imagawa* kaj ŝanĝis ĝian nomon al “kastelo de *Nagoya*”. Cetere ĉi tie naskiĝis *Oda Nobunaga*, kiu poste starigis sian hegemonion en preskaŭ tuta Japanio, en kiu multaj feŭdaj sinjoroj interbatalis en la tempo, kiam la centra registaro de la ŝoguno *Ashikaga* perdis sian potencon.

En 1555, kiam *Oda Nobunaga* translokiĝis al *Kiyosu*, tiu ĉi kastelo estis forlasita perdinte strategian signifon. Sed post kiam *Tokugawa Ieyasu* prenis plenan hegemonion tra la lando kaj fariĝis ŝoguno — iusence li plenumis la entreprenon de *Nobunaga* —, li rimarkis la gravecon de tiu ĉi loko, ĉar ĝi situas ĝuste en la mezo de Japanio kaj eventuale devus fariĝi baraĵo kontraŭ ribelemaj daimioj en okcidenta Japanio. Tial li decidis rekonstrui la kastelon kaj doni ĝin al sia filo *Tokugawa Yoshinao*, kiu fariĝis estro de la provinco *Owari*.

En 1610 komenciĝis la rekonstruado de la kastelo. Multaj daimioj estis mobilizitaj por tio. De 1612 ĝis 1616 funkcioj kiel provinca centro estis translokitaj de *Kiyosu* al *Nagoya*. Jen la naskiĝo de la urbego Nagojo.

Okaze de Restaŭro *Meiji*, dum multaj kasteloj estis detruitaj aŭ venditaj, ĉefaj konstruaĵoj de tiu ĉi kastelo restis sen damaĝo, kvankam la nova registaro ekprenis ĝian posedon.

En 1945 multaj konstruaĵoj, inkluzive de la ĉefturo kaj la palaco, forbruliĝis pro aeratako fare de Usono dum la Azi-Pacifika Milito. Ankaŭ “Ora Delfeno”, kiu estas simbolo de la kastelo, forfandiĝis. (Supron de tegmento de domego japanoj ofte ornamas per du figuroj de animalo, maskla kaj femala, nomata *shachi*. Ĝia ĉina ideogramo 鯨 ĝenerale signifas delfenon, sed ĉi-okaze ne efektivan sed imagatan animalon, kies kapo estas tigro kaj trunko estas fiŝo. Oni kredis, ke tiu ĉi animalo ŝprucas akvon en la okazo de fajro kaj gardas konstruaĵon kontraŭ bruliĝo. Bv. vidi la foton.)



Post la milito ĉefaj perditaj konstruaĵoj estis rekonstruitaj, granda areo estis rearanĝita kiel urba parko, kaj parto de la kvartaloj estas utiligataj kiel loko por urba kaj gubernia domoj kaj aliaj instancoj.

[strukturo]

La tuta areo de la kastelo estas ĉ. 980,000km² larĝa, kaj konsistas el la jenaj areoj: *hon-maru*, *nino-maru*, *nishino-maru*, *ofuke-maru*, *sanno-maru*.

[*hon-maru*]

La centro de la kastelo estas nomata *hon-maru*. En ĝia nord-okcidenta angulo staras la ĉefturo (*tenshu-kaku*), kiun konsistigas granda turo (*dai-tenshu*) kaj malgranda turo (*sho-tenshu*). La unua estas 55.6 metrojn alta, havante 5



etaĝojn surtere kaj 1 etaĝon subtere. La dua, kiu efektive funkciis kiel pordo al la unua, havas 2 etaĝojn surtere kaj 1 etaĝon subtere. La ĉefturo estis finkonstruita en 1612 kaj poste eltenis tertremegojn kaj fajregojn. Sed en 1945 ĝi forbruliĝis pro la aeratako, kaj en 1959 estis rekonstruita per betono kaj fero. Poste ĝi funkciis ĝis 2018 kiel muzeo ekspozicianta artaĵojn kaj armilojn de la meza epoko. Nun oni estas restaŭranta la ĉefturon en la originala stilo tute el ligno, ĉar la nuna verŝajne ne elteneblas pro eventuala tertremego. (Nun oni ne povas eniri en ĝin.)

En la mezo de *hon-maru* troviĝas la palaco (*hon-maru-goten*). En la komenco ĝi estis uzata kiel rezidejo de daimio, nome estro de *Owari*. Sed poste ĝi estis destinita kiel gastejo sole por ŝoguno vizitinta Nagojon, kaj eĉ la familio *Owari-Tokugawa* ne rajtis loĝi tie. (La familio loĝis en la alia palaco en *nino-maru*.) Ĝi ankaŭ forbruliĝis dum la milito. Sed ŝofiaj pentraĵoj, kiuj estis konservataj en magazeno, eskapis la fajron kaj fariĝis gravaj kulturaĵoj de Japanio. En 2009 ĝis 2016 la urbo rekonstruis la palacon. Nun oni povas vidi ĝian pompan internon kaj kopiitajn pentraĵojn.



Areo de *hon-maru* faras preskaŭ kvadratan figuron kaj estas ĉirkaŭata de remparo kaj fosaĵo. Ĉe la kvar anguloj staras turoj: la ĉefturo kaj la aliaj tri turoj, kiuj havis tri etaĝojn; inter ili du restas kaj unu forbruliĝis. Kaj sur remparo staris koridoro, kiu estis utiligata kiel stokejo de armiloj, sed ĝi disfalis en la tertremego en 1891.

[*nino-maru*]

Nino-maru, kiu troviĝas oriente de *hon-maru*, estis origine gardejo por *hon-maru*, kun pli larĝa areo. Sur ĝi troviĝis palaco por estro de *Owari*, kvar turetoj, ĝardeno kaj aliaj konstruaĵoj, kiuj ĉiuj estis detruitaj okaze de

Resraŭro *Meiji*. Nun kelkaj pordoj kaj parto de la ĝardeno restas. La urbo planas rearanĝi la palacon kaj la ĝardenon. Interalie la ĝardeno havis la plej larĝan areon el tiuj, kiuj troviĝas ene de kastelo, kaj en 1953 ĝi estis nomumita de la ŝtato “altvalora loko”.

ĝardeno de nino-maru



[*nishino-maru*]

Ĝi troviĝas en la sud-okcidente de *hon-maru*, kaj same kiel *nino-maru*, gardis *hon-maru*. Ĉiuj konstruaĵoj estis detruitaj okaze de Restaŭro *Meiji*. Fronta pordego sola estis rekonstruita.

[*ofuke-maru*]

Ĝi troviĝas en la nord-okcidente de *hon-maru*, kaj same kiel *nino-maru*, gardis *hon-maru*. Nun restas unu turo havanta tri etaĝojn.

[*sanno-maru*]

Ĉi-supraj kvar areoj kune faris la kastelan centron, kiun plue ĉirkaŭas la rivero *Horikawa*, fosaĵo kun akvo, kaj *sanno-maru*. Sur la lasta staris ĉefe domoj de gravaj vasaloj. Post Restaŭro *Meiji* tie ekstaris urba kaj gubernia domoj, policejo kaj aliaj instancoj.

[*utilaj informoj*]

malfermo: 09:00-16:30 ĉiutage

fermo: jarfinaj 3 tagoj kaj la 1-a de januaro

enirbileto: 500 enoj

manĝo: ekstere de *nino-maru* kaj *nishino-maru* troviĝas restoraciaj kvartaloj.

URL:<https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp>

(Yamaguti Sin'iti)

KANEKO HUMIKO KAJ MI.

Nakayama Akiko

Lastatempe mi legis la libron “Septembre, surstrate en Tokio”², verkitan de Kato Naoki kaj Esperanten tradukitan de Mamiya Midori en la lasta jaro. La libro temas pri la amasbuĉado de koreoj.

En ĵurnalo mi legis la artikolon pri s-ino Kaneko Humiko. Ŝi estas atentata en Sudkoreio kaj Japanio nuntempe. La filmo “Kaneko Humiko kaj Pak Yol”³ estis farita en 2017 en Sudkoreio, kaj mi povis spekti ĝin en la urbo Nagojo.

En la 26-a de septembro, 1923 katastrofo pro la tertremego en la regiono *Kanto* okazis, kaj tiam koreoj, ĉinoj kaj japanaj anarkiistoj estis buĉitaj aŭ arestitaj. Kelkaj propagandis, ke koreoj enĵetis venenon en puton, k.t.p. Ĉu tio ĉi estas vera kaj fakta? Kaneko Humiko kaj Pak Yol ankaŭ estis arestitaj. Kaneko skribis en la karcero sian aŭtobiografion⁴. Leginte ĝin, mi interesiĝis pri ŝia vivo, kvankam mi ĝis tiam neniom sciis pri ŝi. Ŝi vivis en malriĉeco kaj kruela trakto, sed ŝi havis lernemon. Mi mem estas malsana, malriĉa, malsaĝa kaj maljuna. Do lerninte ŝian vivon, mi havu lernemon pri ĉiuj aferoj.

Kio estas homo? Homoj naskitaj devas vivi vole nevole. Ni ne povas elekti sekson, landon, aŭ gepatrojn. En evoluantaj landoj multaj knabinoj kaj virinoj estas vendataj kontraŭ malmulte da mono. Se vi havas intereson pri ŝi, bonvolu legi la jenajn librojn:

瀬戸内晴美『余白の春』（岩波現代文庫）

森まゆみ『海はあなたの道』（PHP研究所）

金子文子『何が私をこうさせたか』（岩波文庫）

金子文子『わたしはわたし自身を生きる』（梨の木舎）

栗原康『狂い咲け、フリーダム —アナキズム・アンソロジー』（ちくま文庫）

² 『九月、東京の路上で』

³ 『金子文子と朴烈』

⁴ 『何が私をこうさせたか』

訃報

川合隆史さん

愛知サマーセミナー（本誌5頁）の折に山本由紀子さんより、「川合隆史さんが亡くなった」との知らせをいただきました。昨年9月26日のことでした。エスペラント関係者には知らされていませんでしたが、山本さんが見せて下さった「第9条の会なごや通信」（第66号、2018.10.10）に追悼記事が掲載されています。

日本エスペラント協会に照会したところ、生年月日は1931年12月10日。1953年7月から2007年12月まで同会会員だったとのこと。名古屋エスペラントセンターには1975年頃から1999年まで在籍。

愛知サマーセミナーで初めてエスペラントの講座を持たれたのは川合さんでした。昨年、私がサマセミで川合さんのお仕事を継承できたことをご報告するために連絡をとろうと思ったのですが、その時は既に重度の病でした。

私が個人的に思い出すのは、ワルシャワでの世界エスペラント大会（1987年）で偶然にお会いし、中華料理をごちそうになったこと。また私が大学のエスペラント研究会で活動していた頃、川合さんのご子息が後輩として入会し、そのご子息を訪ねてこられた時に、エスペラント運動のことをいろいろ聞かせていただいたことでしょうか。

「第9条の会」が1991年にアメリカでオーバービー博士によって創設された時、それに触発されていち早く「第9条の会なごや」を立上げたのが、中部大学の故・勝守寛先生（エスペランチスト）と川合さんでした（1993年）。この年、ロシアから二人の女性音楽家（エスペランチスト）が来日し、そのコンサートを名古屋エスペラントセンターが主催した時に、「第9条の会なごや」として協力していただいたこともあります。その後、川合さんは護憲運動に邁進するためにエスペラント運動からは離れられたのですが、その御遺志が今後とも大切にされることを願ってやみません。（山口）

▶編集後記

○暑い盛りには、エアコンがないセンター事務所での会議や作業はたいへんです。資金さえあれば... ○いろいろな行事、講習会、会議が目白押しです。そんな中、センター委員もがんばっていますので、皆様にもぜひご参加をいただきたいと願っています。（山口）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。